



Program notes

J.マッスネ：歌劇『ウェルテル』より“春風よ、何故私を目覚めさせるのか” <望月哲也>

ゲーテの小説「若きウェルテルの悩み」は、1774年に刊行され、当時の封建的な社会の中で、恋愛に悩み、自分の意思に忠実に生きようとする主人公に多くの読者が共感を寄せ、人気を博した。マッスネのオペラでは、『マノン』と並んで上演される名作。このアリアは、ウェルテルが、シャルロッテへのかなわぬ愛を唄いて歌う。(1892年ウィーン初演)

F.チレーア：歌劇『アルルの女』より“フェデリーコの嘆き” <大槻孝志>

ヴェルズモ・オペラ作曲家として活躍したチレーア。『アルルの女』も、険しい土地、決闘や復讐が掟の狭い人間関係の中で生きる、市井の人々を描いたオペラである。1897年ミラノ初演後、改訂版が1912年ナポリで上演された。甘く、美しい旋律で、リリック・テノールの名アリア。

G.ドニゼッティ：歌劇『ドン・パスクアーレ』より“天使のように美しく” <青山貴>

『ドン・パスクアーレ』は19世紀前半のオペラ・ブッファ(喜劇)の傑作。マラテスタが友人のパスクアーレに「天使のように美しい」と、ヒロイン、ノリーナのことを歌う場面。マラテスタは若い友人エルネストのために、一芝居打つ。すっかり騙されるパスクアーレだが、最後は若い二人を祝福する。(1843年パリ、イタリア劇場で初演)

R.ワーグナー：『タンホイザー』より“夕星の歌” <山下浩司>

ドイツ・ロマン派の頂点に位置する作曲家、ワーグナー。自身の楽劇を上演するために、バイエルン国王ルートヴィヒ2世の援助を受け、バイロイト祝祭劇場を建設。「夕星の歌」は、ヴォルフラムが、エリーザベトへの秘めた愛を一人、星に向かって歌う。エリーザベトはヴォルフラムの親友、タンホイザーを深く愛しており、ヴォルフラムが愛を打ち明けることはなかった。(初演1845年ドレスデン)

オスカー・ピーターソン(森田花央里 編曲)：自由への賛歌 ~佐山雅弘の思い出に <河原忠之>

O.ピーターソンは、1925年生、カナダのモントリオール出身のジャズピアニスト。1949年、アメリカのプロデューサー、ノーマン・グランツに見出され、カーネギー・ホールでデビュー。作品アルバムは約250枚、グラミー賞を7回獲得。「カナダ組曲」、「アフリカ組曲」、98年カルガリー冬季オリンピックの開会式の曲など、作曲家としても知られる。この「自由の賛歌」は、キング牧師(Martin Luther King Jr.)に感銘を受けて作曲されたといわれている。

日本唱歌四季のメドレー(真島圭 編曲)

早春賦〜荒城の月〜花〜夏は来ぬ〜うみ〜村祭〜紅葉〜冬景色(文部省唱歌)〜雪(文部省唱歌)、日本の四季をつづる心なごむ曲たちを、IL DEVUメンバーと同世代の作曲家・ピアニストの真島圭が、メドレーに編曲している。流麗な透明感のあるピアノの響きや、不思議な広がりを感じさせるアンサンブルは、よく知った曲の、また違った楽しみを味わわせてくれる。

G.カッチーニ：アマリッリ、私の美しい人

カッチーニは、イタリアの作曲家で、オペラの発展に貢献した。16〜17世紀のイタリアで盛んに創られたマドリガーレという形式の歌曲で、アマリッリへの溢れる熱い想いを描く。

F.シューベルト：シルヴィアに

シェイクスピアの戯曲『ヴェローナの二騎士』からの詩をドイツ語訳したものに、シューベルトが作曲した。横恋慕のために親友を裏切ったプロテュースが、恋するシルヴィアの美しさを称えて歌う窓辺のセレナーデ。



Program notes

アイルランド民謡(チルコット 編曲)：ダニー・ボーイ

イギリスのポップ・チルコットは、自身も1977年までキングス・シンガーズでテノールを務めるなど、歌手として活躍した合唱曲作曲家、指揮者。<ダニー・ボーイ>は、息子や孫を戦地に送り出す、親の切ない心情を歌う。

岡野 貞一(チルコット 編曲)：朧月夜

高野辰彦の故郷、野沢温泉の菜の花畑がモチーフとされている<朧月夜>。春の夜に月がほのかに霞んでいる情景が目に浮かぶ、幻想的でどこか懐かしい日本の名歌。

やなせたかし 詩/木下牧子：10のメルヘン『愛する歌』より“ロマンチストの豚”

やなせたかしは、『アンパンマン』の生みの親であり、「手のひらを太陽に」の作詞でも知られる。やなせたかしの詩集『愛する歌』を、本屋で手にした木下牧子が、この詩に心を動かされ、曲をつけたことがきっかけで生まれた10のメルヘン『愛する歌』。当初は女声・同声合唱のために書かれたが、後に男性4部合唱版も作られた。

三好達治 詩/木下牧子：鷗

三好達治は疎開先の北陸で終戦を迎え、この作品は昭和21年7月刊行の詩集「砂の砦」に所収されている。もともとは男声合唱曲として作曲され、合唱団にも人気の高い楽曲。IL DEVUのために、作曲家自身が編曲を手がけている。

イスラエルの曲：ハヴァナギラ

Hava Nagilaはヘブライ語で、喜ぼう！喜べ！という意味。もともとは、ウクライナとルーマニアにまたがるブコビナ地方の民謡を元にした、イディッシュ・ダンスの曲。日本ではフォークダンスの曲として知られる「マイム、マイム」も、ユダヤ教徒の結婚式や成人式などお祝いの席で演奏される。多くのアーティストがこの曲をカバーしているが、日本では、ハリー・ペラフォンテの録音が有名。フィギュアスケートでは、ロシアのブルシェンコ選手がこの曲を使用していて、異国情緒を誘う独特の旋律が魅力。

フィリピンの曲：ダヒル・サヨ

フィリピンで愛唱されるラブソング。Dahil sa iyoは、英語ならBecause of you あなたのせいで、とかあなたゆえに、と訳される。ナット・キング・コールがタガログ語で歌っている録音や、英語バージョンもあり、日本ではベギー・葉山や、ハワイアンのエセル中田が歌っている。

アルゼンチンの曲：ポル・ウナ・カベサ

カルロス・ガルデルが1935年映画『タンゴ・バー』の挿入歌として作曲。Por Una Cabezaの意味は、「首の差で(頭の差で)。(スペイン語で競馬用語)。“首の差で(恋に)負けた”男の歌。フィギュアスケートの浅田真央選手も、この曲を使用。またアル・パチーノが出演した映画『セント・オブ・ウーマン(邦題:夢の香り)』でも印象的に使われている。

英・米の曲(森田花央里 編曲)：ユーアー・ソー・ビューティフル

ビリー・プレストンの原曲をジョー・コッカーがリメイクしてヒットし、日本でも知られている。1975年ビルボードのヒット・チャートで5位。ジョー・コッカーは、1944年英国ヨークシャー州シェフィールド生まれ。しわがれ声のヴォーカルで人気を集めた。2007年にエリザベス女王から大英帝国勲章を授与されている。